

▼ 将来にむけて、計画によりどのような課題を解決しなければならないのか

本編第2章

● 都市構造上の特性

- 本市は、日本海に面し、1R小樽駅周辺の中心市街地を中心として、東西に細長く約69kmに及ぶ海岸線に沿う形で、東側の札幌市に隣

※計画(案)[概要版]は、
審議会当日、机上配布いたします。

市街地が広がり、既に一定程度コンパクトな市街地が形成されている状況にあります。

東西に細長く約69kmに及ぶ海岸線に沿う形で、東側の札幌市に隣自然に囲まれた蘭島や塩谷などの市街地が飛び地で形成され、その少ない特有の地形をしています。

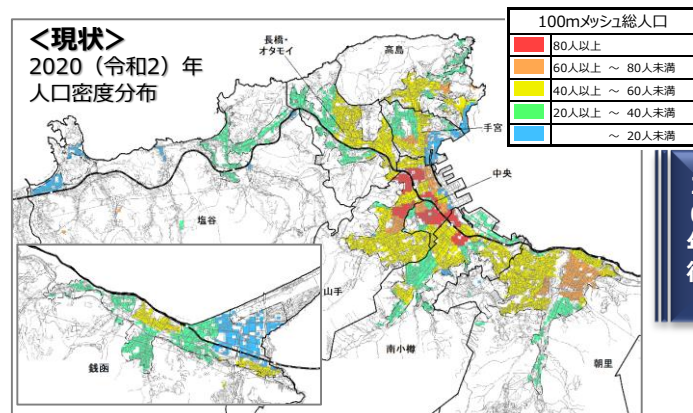


● 計画により解決すべき課題（以下は分析結果の一部であり、その他の分析結果や言葉の定義等は、本編第2章参照）

- 本市は、一定程度コンパクトな市街地が形成され利便性が確保されていますが、このままの市街地の広がり（規模）では将来の人口減少により、まちの活力やにぎわい、生活利便性の低下が懸念されます。
- 本計画は将来目指す都市計画（コンパクト・プラス・ネットワークの都市構造）の実現に向け、「居住」、「都市機能」、「交通ネットワーク」の3つの視点で、人口などの都市の状況分析の結果等から解決すべき課題を抽出しました。

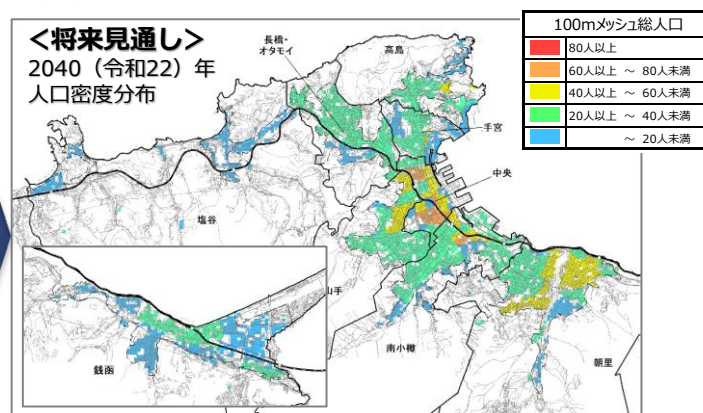
◆地域別の人口密度※（現状）※1ヘクタール（ha・100m×100m）当たりの人口で、人の混み具合を表す指標

- ・暖色系（40人/ha以上）が一定の広がりを見せています。



◆地域別の人口密度※（将来見通し）

- ・人口密度の低下が進行（暖色系から寒色系）し、特に郊外の市街地の低下が顕著となっています。



20年後

将来に向け解決すべき課題への対応

視点「居住」

- 居住の誘導・集約による人口密度の維持・確保
- 地域特性等に応じた住環境の維持・形成
- 安全・安心に住み続けられる居住地の形成

視点「都市機能」

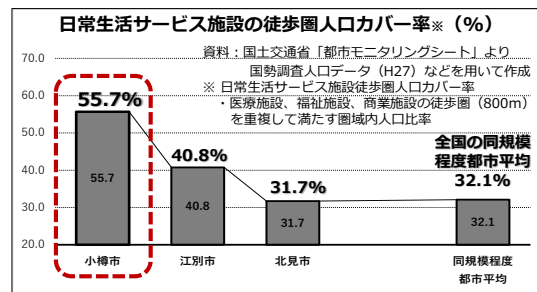
- 地域の拠点における都市機能の維持・誘導による集約
- 中心市街地等における活力と魅力の維持・向上

視点「交通ネットワーク」

- 持続可能な拠点間交通ネットワークの形成
- 拠点等の形成と連携した交通環境の維持・充実

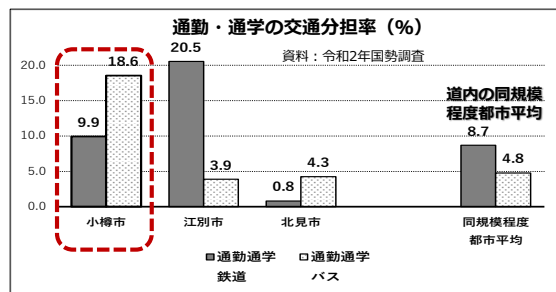
◆日常生活のサービス水準（現状）

- ・同規模程度都市平均（以下「他都市」という。）と比較して高い生活サービス水準が確保されており、生活利便性の高さが伺えます。



◆公共交通の利用状況（現状）

- ・通勤通学の公共交通（鉄道・バス）の利用割合が高く、特にバス利用は他都市を大きく上回り、市民生活に欠かせないものとなっています。



▼ 課題解決に向け、どのようなまちづくり、都市構造を目指すのか

本編第3章

● 立地適正化に関する基本的な方針

- 前述の3つの視点での課題の解決に向けて、「まちづくりの目標（目指す将来都市像）」と、これを実現するための「まちづくりの方針（ターゲット）」、「誘導等の方向性（ストーリー）」を以下のとおり設定し、「居住」、「都市機能」、「交通ネットワーク」の3つの視点から、人口減少や少子高齢化などの社会動向に対応し、安全・安心で快適な暮らしを持続可能とする効率的なまちづくりを目指します。

まちづくりの目標（目指す将来都市像）

自然と人が紡ぐ笑顔あふれるまち小樽※
～あらたなる100年の歴史へ～

※「第7次小樽市総合計画」と共有

まちづくりの方針（ターゲット）

持続可能で効率的なまちづくり※ ※「第2次都市計画マスタープラン」の基本目標と共有

居住に関する方針

居住者の安心で快適な暮らしと地域のつながりを持続可能とする、地域特性に応じた拠点を中心とした日常生活圏の形成に向け、ゆるやかに居住を誘導・集約します。

－ 誘導等の方向性 －
（ストーリー）

本市固有の多彩な地域資源や空き家等の既存ストックなどを生かしつつ、拠点やその周辺、基幹的公共交通軸沿線に、住みよい環境をつくりながら、居住をゆるやかに誘導・集約することで、“小樽ならではの住みよさ”が備わった居住地の形成を目指します。

居住誘導区域の設定

都市機能に関する方針

居住の誘導・集約と連携を図りながら、誰もが将来にわたって利便性を享受できるように、各拠点に、その役割や地域特性に応じた都市機能を確保します。

－ 誘導等の方向性 －
（ストーリー）

各地域の成り立ちや特性、将来の役割を見据えながら、中心拠点と、これを補完する複数の拠点を配置し、適切な役割分担のもと、必要とされる都市機能を維持・誘導し集約することで、新旧の都市機能が調和し、将来にわたって人が集い、にぎわいあふれる魅力的な拠点を中心とした市街地の形成を目指します。

都市機能誘導区域の設定

交通ネットワークに関する方針

拠点間や拠点等を中心とした日常生活圏の移動を支える持続可能な交通ネットワークの形成を図ります。

－ 誘導等の方向性 －
（ストーリー）

小樽市地域公共交通網形成計画における取組みと連携を図りながら、基幹的公共交通軸を中心とした持続可能な交通ネットワークの形成を図り、将来にわたって拠点間や日常生活圏における円滑な移動を確保します。

基幹的公共交通軸の設定

● 本市が目指す都市の骨格構造

- 第2次小樽市都市計画マスタープランを踏まえ拠点を設定するとともに、中心拠点（小樽駅周辺）を中心として、海岸沿いなどに配置された複数の地域拠点等（全13拠点）が基幹的公共交通軸※を介して結ばれた構造とします。
※ 基幹的公共交通軸：将来にわたり一定以上のサービス水準を確保する中心拠点を中心として、各拠点や札幌圏等とを結ぶ交通軸
- 本計画の計画期間はおおむね20年後（令和21（2039）年）としますが、その先の将来（40年後）を考慮し、持続可能な都市の発展を今後も支えるため必要となる「都市の骨格構造」を下記のとおりとします。



図 都市の骨格構造図（13拠点と基幹的公共交通軸）